

2021年度（2021年7月1日～2022年6月30日）事業報告

□この1年

「ラオスのこども」は1982年に任意団体として活動を開始し、40年が経ちました。これまでラオスにおいて、子どもたちの教育環境を改善するために・ラオス語図書出版・本を読む環境の整備・子どもたちが集う場の設置支援などにより、多くの皆さまのご支援のもと、ある程度の成果を残すことが出来たと自負しています（活動の歴史は「ラオスのこども通信」82号をご参照ください）。この歴史を踏まえ、今後どのような姿で、どのような活動をおこなうのか、この数年間、話し合いが続きました。その結果、理事会で合意されたのは「まだ私たちの活動はラオスで必要とされており、これまでの事業成果を踏まえ・図書館を起点とする読書推進活動を継続させること・ラオス語図書の出版に力を入れる」という方向性です。具体的には、ヴィエンチャン県で中等学校を中心に、図書館活動を読む楽しみを育てるだけでなく、教育を高めるシステムの一環として、機能させる事業をさらに深め、またラオス語図書出版・販売により力を注ぐことを決定しました。

・重点的取り組み

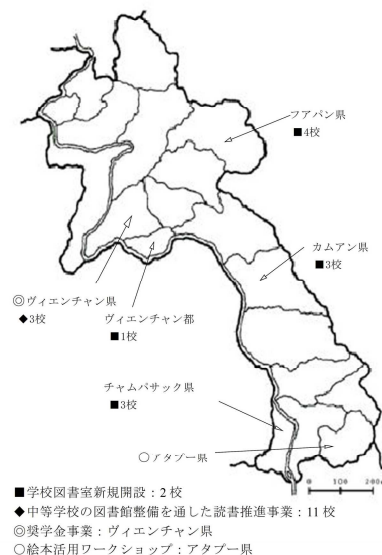
本年度は、4年間にわたりヴィエンチャン県で進めてきた、外務省日本NGO連携無償資金協力による中等学校図書館整備事業の最終年でした。この事業は、読書を楽しむ場としての図書館から、さらに学びを豊かにする積極的な図書利用の場、担当教員のネットワークの構築による自律的な図書館活動の場の構築を目指すものです。ラオスでのコロナによる学校閉鎖が続き、年度前半は学校での図書館活動を実施することが困難でした。12月に現場を訪問することが可能となったことで事業期間を半年延長し、図書館の働きを定着させ発展させる活動は成果をもって終了することができました（正式には2022年度7月末終了）。これらの図書館活動は主に、外務省日本NGO連携無償資金協力、JICA草の根技術協力事業など、公的資金（ODA）などを受けて実施してきましたが、ODAでは「同じ内容の事業を継続的に支援することは出来ない、持続発展性を含むものでなければならない」という基本的な方針があります。一方、教育支援の成果は、3年4年で目に見えるものではなく、点から面へと活動成果を広げることで、初めて自律的な日常へ転化できるものと私たちは確信しています。また、ラオスのように政府資金が乏しい体制にあって、事業の自律的継続性を保証することはなかなか困難です。大規模な事業の実施には公的資金が必須である現実において、これらのギャップは大きく、事業をどのように組み立てるか苦慮しましたが、調整の結果、ヴィエンチャン県で「中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業」として、JICAと協力事業を進めることが決定し、遅くとも2024年度に開始することになりました。

東京事務所でもテレワークによる業務推進が定着し、前年度よりは全般的にスムーズに運営をおこなうことができました。一部を除きイベント開催がほとんど出来なかった一方で、書き損じはがき・未使用切手回収キャンペーンやカレンダー販売で成果があり、加えて経費削減に取り組むことで、昨年度に続き黒字で決算を迎えることが出来ました。さらに、多くの皆さまのご支援により、ここ数年問題であった実質財産の赤字をかなり圧縮することができました。「家でできるボランティア」として、企業の皆さまの「ラオス語絵本プロジェクト」への参加も増え、私たちの活動への認知が進んでいることに感謝します。ラオス事務所においてもスタッフの成長が著しく、プロジェクト運営に加え図書販売などにおいても主体性を発揮し、例年にもまして成果を上げることができました。

・成果

皆さまのご支援の結果、今年度は、ラオス語図書2種類3,500冊を現地で出版し、11か所で新規の学校図書室を開設することができました。今年度末までの累計ではラオス語図書 230種類 928,055冊（図書195/紙芝居19/教科書類6/ニュースター10）を出版し、ラオスの小中高校10,644校（小学校8,813校、中等学校1,831校）のうち、340か所で図書室（うち16か所は地域文庫）を開設し、2,732校に図書セットを配付。2,328校でフォローをしました。また、これまで全国14か所の子どもセンターの運営を支援し、活動の活性化を支援しています。

2021年度 事業対象地域図



プロジェクト運営

<計画> 今期は、ラオスにおいて以下の活動をおこなう

1. 子どもたちが読書に親しむ環境を整える「読書推進活動」
2. 子どもたちに良質な本を提供する「出版活動」

さらに日本では、ラオスの状況や実施事業を紹介すると共に自己資金の拡充のために、イベントの参加や実施、出前講座活動、ラオス語絵本プロジェクトなどを展開する

I 読書推進活動

I-1. 中等学校の図書館整備を通じた読書推進事業

<計画> 生徒数の増加に比し図書室の整備が遅れている中等学校（中学4年高校3年一貫校）において、図書館整備をおこなう。事業は3か年の計画で実施し、図書館建設と共に、教員や生徒へ図書館研修を実施する計画。3年目の今期は、これまでに図書館を開設したヴィエンチャン県のポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ中等学校で、図書館整備事業の仕上げをおこなう。「図書館の展示やサインに関する研修」「授業での図書活用に関する研修」を実施し、各学校での「図書館オープンデー」や、3校合同で「図書館研修大会」を実施して、郡教育スポーツ局と村教育開発委員会との連携体制を作ることで、持続する活動として定着することを目指す。

<実施>

1) 図書館応用研修

事業2年次に図書館を開設したサカ中等学校、ヒンフープ中等学校で、図書館の応用研修として、①図書館サイン・展示研修と、②授業における図書活用研修を実施した（②については、図書館情報学専門家下田尊久さんとオンラインで繋ぎ実施）。

当初、2021年4月に実施する予定であったが、サカ中等学校で①図書館サイン・展示研修を実施した時点で、コロナ禍によるロックダウンにより他県への移動規制や学校閉鎖となり、残りのサカ中等学校での②授業における図書活用研修とヒンフープ中等学校での①、②のは翌2022年1月に実施した。

2) モニタリング

1・2年次に各校での定期モニタリングが充分にできていなかった反省をふまえ、3年次は、年次開始時に3か月に1度のモニタリング実施スケジュールを設定した。コロナ禍により、予定通りの実施は叶わなかったものの、2021年8月、2022年1～2月、5月に実施し、郡教育局、村教育開発委員会（VEDC）、学校長・図書館担当教員が集まり、学校図書館運営報告書の共有と、学校図書館運営計画の策定と見直しを行った（学校図書館運営報告書は3か月ごとの提出になっており、コロナ禍でモニタリングが実施できなかった10-11月は各学校からデータで提出してもらった）。

3) 交流イベントの開催

図書館活動への認知度を高め、住民参加を促すために、2022年1～2月にかけて、各校で「学校図書館オープンデー」を開催した。図書館担当教員や図書館ボランティアの生徒が、応用研修②で学んだことを活かして、図書館サインや展示をリニューアルし、招待した地域住民や、学校の先生・生徒に披露した。教員の部では、応用研修②を受けた教員が、他の教員に自身の授業計画案を発表し、「授業における図書活用」のノウハウを伝授した。

事業活動の集大成として、4月20-21日に3校合同の「学校図書館交流大会」を実施した。各校対抗の「図書館サイン・展示コンテスト」を実施し、各校の代表教員による「授業における図書活用」の発表会を行った。大会の様子は記録集にして、ヴィエンチャン県内各中等学校に配布した。

4) 終了時評価

5月27日に、対象校3校合同で、地元行政機関・関連省庁参加のもと、評価会議を実施した。当会が郡教育局、VEDC、学校長、教員から収集したアンケートにより、「応用研修」を受けた教員が自身の授業で積極的に実践していること、「学校図書館オープンデー」「学校図書館交流大会」のイベント実施に効果がみられたこと、モニタリングが定期的実施され、図書館担当教員間のSNSグループネットワークが、教員どうしの交流・情報交換に役立っていることが示された。

<成果と課題>

事業3年次（最終年次）に入って間もなく、コロナの影響で半年以上の活動延期を余儀なく

された。そのため、事業終了が2022年2月末のところを、7月末まで5か月延長し、当初の活動計画の実施範囲を一部変更しながら、事業活動を完了した。

3年間の活動を通じて、郡教育局やVEDCの学校との連携や図書館支援に対する認識が高まり、図書館担当教員も、基礎的な図書館運営業務だけでなく、新着図書の紹介展示をしたり、どんな図書や資料を購入したいかなど、自分たちの図書館のニーズに合わせて意見を持つようになってきている。学校図書館運営計画も自分たちの学校の状況に合わせて作成出来るようになり、自主的・継続的な図書館運営を可能にする土台が出来てきた。また他校の図書館教員どうし、学校間、郡間での交流も促進され互いに刺激を受けている。ヴィエンチャン県では引き続き、来年からJICA草の根事業を始めることになるが、本事業の対象校に新事業でも関わってもらい、県内全体で学校図書館の運営・活動の向上を目指す体制をとっていきたい。

(日本NGO連携無償資金協力事業)

I-2. 学校図書室（ハックアーン）の整備

<計画> 小中学校の空き教室に本と本棚を提供し、図書室運営に関する教員研修をおこない、学校に図書室を整備することで、子どもたちが日常的に図書に接する機会をつくる活動を継続する。新規開設7校、既設図書室のフォローアップ活動3校を予定。(ヴィエンチャン県：昨年度未完了分)

<実施>

既存の学校図書室のフォローアップ活動は、5月にヴィエンチャン県内のポンホーン郡ノンコーン小学校とシンフープ郡コンケオ小学校で実施した。残る同県ポンホーン郡の1校は、当該小学校の児童数が少なくなったことに伴い、郡教育局・学校と相談の上、図書室の場所を近隣のナーラオ中学校に移設した。

(ご支援：冬募金2020、(公財)ベルマーク教育助成財団)

新規開設は下記の11校で実施し、これまでの開設累計は340校になった。開設時には、担当教員を対象に図書館運営研修を実施した。

2月14-15日 HA328 ナーパオ小学校(カムアン県サイヴァートン郡) 福岡那の香ライオンズクラブ

2月16-17日 HA334 ブアラパー小学校(カムアン県ブアラパー郡) 2021クラウドファンディング

2月18-19日 HA331 カムヘー小学校(カムアン県ニョマラート郡) 2021クラウドファンディング

2月26-27日 HA337 ナートン小学校(フアパン県ソップバオ郡) ChildFund

2月29日-3月1日 HA339 カーンロン小学校(フアパン県ソップバオ郡) ChildFund

3月2-3日 HA338 ファイヒアン小学校(フアパン県ソップバオ郡) ChildFund

3月4-5日 HA340 パーコムノイ小学校(フアパン県ソップバオ郡) ChildFund

3月31日-4月1日 HA336 国立芸術学校(ヴィエンチャン都シーサタナーク郡) OSHIHARA

4月25-26日 HA329 ラック28小学校(チャムパサック県パクソン郡) すかいらくグループ

4月27-28日 HA330 バンリアン小学校(チャムパサック県パクソン郡) すかいらくグループ

4月29-30日 HA335 パクソン中等学校(チャムパサック県パクソン郡) すかいらくグループ

<成果と課題>

今年度は、フォローアップで3校、新規開設で11校、併せて12校の図書室を訪問することができた。今年度は、クラウドファンディングや国際NGOの事業受託など、当初の計画に加えて更に多くの図書室を開設することとなったものの、コロナ禍の影響で、予定を度々変更・延期しながら、なんとか事業を完了させることができた。

I-3. ALC図書館（ラオス事務所併設図書館）活動

<計画> 会スタッフにとって、図書館活動の実地研修の場として欠かせないものではあるが、今期の団体の状況から、開館日を調整するなど活動の一部縮小を検討する。

<実施>

昨年度より図書館再開期間は、これまでの週6日から、週5日の体制に変更している。学校閉鎖が続き、学校再開後も学校が昼休み中の生徒の外出を禁止していたため、稼働は夏休み期間の3か月のみで図書館の来館者数は1ヵ月平均52人と落ち込んだ。

<成果と課題>

コロナの影響により通常の図書館活動が停止していたため、活動内容の見直しを検討出来なかった。一方、I-1の事業に連動した「図書館展示」の展示替えを実践し、スタッフの図書館活動のスキルアップを図ることが出来た。コロナの感染状況が落ち着いた後、今後、図書館活動を本格再開させるにあたり、一旦落ち込んだ来館者をどう呼び戻すのか考えていく必要がある。

I-4. 新規事業の案件形成

<計画> これまでの読書推進事業の実施経験を活かし、特に現在N連事業（I-1）で実施中の中等学校で図書館活用の内容を発展させた事業を、JICA草の根技術協力事業に申請する。

<実施>

案件形成をおこない、12月にJICA草の根技術協力事業に申請し、4月に採択となった。JICAとの調整やラオスの了承取り付け（MoU締結）の準備にとりかかった。

II 出版プロジェクト

<計画> 専門家のアドバイスを得て、質の高い図書を計画的に出版する。出版については、文化継承を意識した本、著作権を得た海外翻訳本などを含めて、多様な本を計画的に出版できる体制をつくる。

- ・『カンパーとピーノイ』『カンパーとナンガー』『文字絵本1』『文字絵本2』『数字絵本』について図書の再版をおこなう。いずれも販売分も作成する。
- ・在庫切れになっている図書の再版や、新刊図書については、市場を意識しつつ、再版を慎重に検討する。さらに新しい図書も企画し出版計画をすすめる。

<実施>

再版2作品の計3,500部を出版した。当会がこれまでに出版した図書・紙芝居は累計230点928,055部となった。

	作品名	作者名	出版数	主な支援者
1	『カンパーとピーノイ』 (孤児と小さいお化け) 第6版	文)ドゥアンドゥアン プンヤボン 絵)ヴォンサヴァン	2,000部	学習院女子大学 絵本出版指定募金
2	『カンパーとナンガー』 (孤児と象牙娘) 第5版	文)ドゥアンドゥアン プンヤボン 絵)ヴォンサヴァン	1,500部	学習院女子大学 絵本出版指定募金

『カンパーとピーノイ』『カンパーとナンガー』は、ラオスの民話で、一連の物語である。中等学校の文学の教科書にも掲載されており、開設支援した図書室でも、貸出率No.1の人気図書となっている。

『文字絵本1』『文字絵本2』『文字絵本3』『数字絵本』について、初版の色合いを復元した再版を計画し、今期は、初版画像のスキヤニング、入稿データの編集、ならびに出版許可の手続きを進めた。6月に印刷したが、『文字絵本3』『数字絵本』は一部で製本の不具合があり納品が次年度にずれ込んだ。

『アタプーの詩』活用ワークショップ

昨年度出版した『アタプーの詩』（2018年のダム崩壊で水害を受けた被災地アタプー県サナムサイ中等学校の先生・生徒が綴った詩集絵本）の活用ワークショップを、3月21～25日に現地で実施した。アタプー県サナムサイ郡の小学校、中学校、中等学校計5校を対象に、本の引渡式と読み聞かせ、防災マップづくりを行った。当ワークショップは、当初昨年5月に実施する予定であったが、コロナの影響で延期となり今年度実施した。

<成果と課題>

『アタプーの詩』で、制作プロセスやその後の活用方法までトータルで考慮した出版事業を展開していくことができた。今後も、読書推進事業や資金調達にも効果をもたらすことを見据えた出版計画をしていきたい。

現在のラオス事務所スタッフは、編集・印刷の知識・経験が浅く、図書の出版について日本人駐在員に頼っているのが現状である。人材育成をしたいところではあるが、現状のスタッフの業務配分や能力を考えると限界がある。

Ⅲ 子どもセンター(CCC/CEC)

- <計画> 1994年に子どもたちの自己表現活動の場として開設した「子ども文化センター（CCC）」は、社会に定着し全国に広がった。しかし、子どもたちの環境が変化する中で、来館者数が減少し、活動が停滞しているセンターが増えていることから、どのようなアドバイスや支援ができるかを検討していく。
- ・全国での現在の活動などの把握を進めるが、今年度は支援活動を休止する。

Ⅳ 奨学金事業

- <計画> 2019年度より開設した会独自の奨学金事業は、I-1の事業地であるヴィエンチャン県3か所の中等学校にて、奨学金の給付を継続しておこなう。

<実施>

I-1の事業地であるヴィエンチャン県ポンホーン郡ポンサイ中等学校、サカ中等学校、ヒンフープ郡ヒンフープ中等学校の3校にて奨学金事業を実施。今年度は、I-1の事業が最終年度であることをふまえ、新たな奨学生の募集は行わず、昨年度に選考された奨学生の現状調査を1月に行い、在学中のポンサイ中等学校3名、サカ中等学校3名、ヒンフープ中等学校2名の計8名の生徒に奨学金を給付した。

(ご支援 マンスリーサポーター、指定寄付)

<成果と課題>

コロナ禍による学校閉鎖などで、奨学生の状況把握や奨学金の支給に遅れがあったものの、就学継続が困難だった生徒たちに、学習を続ける機会を提供することができた。

なお、現在の対象校での支援はI-1の事業完了に伴い収束の方向になるため、今後、奨学金事業をどうしていくか、検討を要する。

Ⅴ 国内事業

V-1. 各種イベント

- <計画> 資金調達や新たな支援者の開拓を目的とし、イベントへの参加や開催を効果的におこなう。

<実施>

エスノースギャラリーでの展示販売会などを通して、資金調達と共にラオス理解、活動理解を広める活動をおこなった。パルシステム神奈川ゆめコープが開催した「ハートカフェ」や「グローバルフェスタ」には、オンラインで参加した。また、一昨年は中止、昨年はオンラインで実施した「ピーマイパーティ」を、初の着席方式で参加人数を絞りながら、開催することができた。3年ぶりに開催した京都での織物展は、観光客はまだ多くはなかったものの、久しぶりの開催ということもあり、多くの方にご来場いただいた。

V-2. 出前講座活動

- <計画> 学校などを訪問して実施する「出前講座」「講師派遣」を継続して実施する。

オンラインでの実施を含めて、講師料や講座開催費を得ながら実施を広げる。

<実施>

今年度も継続して以下の学校に講師派遣をおこない、ラオスや国際協力、当会の活動への理解を促進することができた。大学はオンラインでラオス事務所と繋いで実施した。

7/17	町田市立真光寺中学校
1/19	愛知県立大学
1/24	女子美術大学附属中学校
1/28	東京学芸大学
5/24-6/28	学習院女子大学（全5回実施）

V-3. ラオス語絵本プロジェクト

- <計画> 支援者の拡大及び開発教育として、個人協力者に加えて、企業・学校・団体と連携して実施する。メディアへの広報を強め、プロジェクトの社会的認知度をあげ、参加者を増やす。プロジェクト参加者が活動支援者となるよう組み立てを工夫する。

<実施>

今年度のプログラム申込者は85件で、合計1,183冊の絵本が作成され、昨年度よりも件数は10件ほど減ったものの、企業など団体での取り組みが増えたことで図書は約200冊増加した。沖電気工業株式会社、株式会社ニコンの絵本作りイベントも、在宅での実施となったことで参加者が増え、完成する絵本も増加した。しかしラオスへ送る郵便が引き受けを一時中止しており、滞りがある。

翻訳シートデジタル化と改訂作業は、ラオス語の出来るインターンの参加により、作業スピードがあがった。図書リストの検討会議は実施することができなかった。

V-4. 書き損じハガキの収集

<計画> 資金調達及び支援者拡大として、個人協力者に加えて、企業・学校・団体からの協力を得るなど、新規支援者の開拓をし、活動支援者となるように組み立てる。

<実施>

今期は「書き損じはがき・未使用切手回収キャンペーン」に組織的に取り組み、310件を超える個人や団体から、18,046枚の葉書（922,764円相当）と1,258,602円分の未使用切手、172,222円の現金をいただいた。キャンペーン以外での寄付も増え、341,836円相当の葉書と切手の寄付をいただいた。

会の運営

<計画> 東京、ラオス両事務所間での情報共有を深め、組織の運営能力の向上を図る。これまで以上に対象と成果を明確にした広報活動を強化することで、市民からの支援を厚くし、資金調達に結びつける。

VI 理事会

<計画> 経営、資金調達、プロジェクト進行などの状況を把握し、プロジェクトの進捗、成果の確認により、組織運営を管理し運営方針の決定をおこなう。年に3～4回開催する。
広報や出版等の事業分野において、理事は役割を積極的に担う。

<実施>

以下の9名の理事、監事により運営が担われた。

- 理事
- ・塩谷 光
 - ・新藤 雅章
 - ・チャンタソン インタヴォン
 - ・野口 朝夫
 - ・西村 恵子
 - ・森 透
- 監事
- ・矢崎 芽生
 - ・脇田 康司
- アドバイザー
- ・小林 毅
- 顧問
- ・長野 ヒデ子
 - ・やべ みつなり

年4回理事会を開催した。オンラインでの開催により毎回ほぼ全員、延べ28名の参加となった。財政状況、資金調達、プロジェクト運営についての報告のほか、今後の当会の運営をどのように展望するか、JICAに申請する事業内容の確認などが話し合われた。

第1回 9/4 8名出席（うちオンライン5名）

主なテーマ：第19期事業報告案・決算報告案の承認、第20期修正事業計画案・修正予算案の承認、監査報告承認、総会手順の確認

第2回 12/25 8名出席（うちオンライン2名）

主なテーマ：ラオスでのコロナウイルス感染の報告、日本NGO連携無償事業進捗報告、JICA草根の技術協力事業申請報告、カレンダー販売報告、通信・年次報告発状況、書き損じハガキキャンペーン報告、クラウドファンด์計画

第3回 5/14 7名出席（うちオンライン1名、書面表決2名）

主なテーマ：ラオスでのコロナウイルス感染の報告、日本NGO連携無償事業進捗報告、JICA 草根の技術協力事業申請報告、財務状況報告、カレンダー販売報告、書き損じハガキキャンペーン報告、クラウドファンด์成果報告

第4回 6/24 7名出席（うちオンライン3名）

主なテーマ：財務状況の報告と来期の方向性について討議、第21期事業計画・予算案の承認、理事選任、アドバイザー契約の承認、ピーマイパーティ実施報告、活動の方向性を話合う理事懇談会について

（上記は、理事監事の出席人数。その他、アドバイザー、スタッフが参加している）

総会

<実施>

9月18日、2021年度通常総会を活動会員45名（書面表決、委任状提出を含む。うちオンライン参加者は17名）、活動協力者7名、計52名が出席し開催した。2020年度の事業報告案及び決算報告案に関する事項が承認され、2021年度の実業計画書、予算案について報告された。第2部は代表のチャントソンが今のラオスの様子をヴィエンチャンからオンラインで報告した。

Ⅶ 東京事務所 組織運営

東京事務所は以下のメンバーで運営を担当した。

野口朝夫 常勤非専従事務局長 1992年1月入職

赤井朱子 統括、プロジェクト担当 1995年4月入職

伊藤珠希 国内事業担当 2018年10月入職 2022年4月退職

コロナ禍が続くことから、日常活動に遅滞がでないよう工夫を重ねながらテレワークを基本として業務を進めた。今年も、学生インターン（岡田龍之介さん、矢野みなみさん、工藤朝妃さん、堪山泰瞬さん、小出菜々美さん）、会計専門のボランティアスタッフ2名（風間美苗さん、福島孝好さん）の継続した協力により、事務局が支えられた。

Ⅶ-1 事業運営

<計画> ・事業成果の継続と発展を重視する

・読書推進の専門家・活動家と連携し、プロジェクト運営の質を高める

<実施>

日本NGO連携無償資金協力事業「中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業」では、ラオスの学校が休校になるなど、事業を中断をせざるを得ない時期があり、外務省との協議、予算調整など昨年度に引き続き、多様な業務が発生した。また、この事業を発展させ、学校図書室のネットワークを組み立てる新規事業の立案のために、多くの時間を割き、JICAとの話し合い、調整を踏まえて事業としてまとめることが出来た。

<成果と課題>

この2年半にわたるコロナ禍において、ラオスに日本人スタッフの駐在を維持できたことにより、ラオスの状況についての的確な情報収集が可能となり、東京とラオスの事務所が頻繁に意見交換をおこなうことで、遅滞なく事業をすすめることが出来た。

Ⅶ-2 組織運営

<計画> ・活動会費・サポーター会員の会費について値上げの検討をおこなう。

・活動会員・賛助（サポーター）会員の加入勧誘を積極的にこなう。

・両事務所の情報共有が確実となるよう、定期的なオンライン会議をすすめる。

・インターンに対し、事務所運営やイベントの担い手として参加を高める。

<成果と課題>

会費による寄付が認定NPOの特典である税制優遇を受けられていない現状に対し、賛助（サポーター）会員の特典を無くすことで、優遇を受けられるように制度を変える検討をおこなった。制度の改定は、2022年度通常総会において討議される。

9月～12月にかけて、賛助会員新規ご入会キャンペーンを実施した結果、新規ご入会や再入

会を合わせて22名の申し込みを受けることができた。
ラオス事務所との定期的なオンライン会議は継続された。

VII-3 資金調達・広報

- <計画> ・認知度を高めるためのメディア戦略を再検討する。
・ラオス関係法人への広報活動を重視する。
・物販委託先の開発をおこなう。
・BASEショップのリノベーションに着手する。
・21年7月から12月までの間、サポーター会員増強キャンペーンに取り組む。
・書き損じはがき・未使用切手回収キャンペーン 21年11月から22年2月まで実施する。
・21年秋に、80万円を目標とするクラウドファンディングを実施する。
・冬募金を着実に実施する。目標金額100万円。
・通信の着実な発行を継続する。

<実施>

各種活動を紹介するために、以下のような情報発信をおこなった。

- | | | |
|---------------|----------|---------------------|
| ・ホームページ記事発信 | : 33回 | (前年度: 25回) |
| ・ブログ記事投稿 | : 7回 | (前年度: 7回) |
| ・フェイスブック記事投稿 | : 94回 | (前年度: 130回) |
| ・フェイスブックフォロワー | : 1,423人 | (前年度: 1,296人) ※期末時点 |
| ・インスタグラム記事投稿 | : 29回 | (前年度: 37回) |
| ・ツイッター記事投稿 | : 17回 | (前年度: 36回) |
| ・新聞記事掲載 | : 6回 | (前年度: 0回) |

紙媒体としては「ラオスのこども通信」を以下の通り年2回 計3,000部発行した。

81号(12月発行)「絵本『ぼくはどこへいくの』子どもたちのところへ」

82号(6月発行)「40周年記念特別号」

年次報告書は10月に700部発行。奨学金を支援するマンスリーサポーター向けに「マンスリーサポーター通信」を8月と3月に発行した。

テーマを定め呼び掛ける特別募金は、以下のスケジュールで2回実施した。

- ・6月～9月：特別募金 募金額合計787,980円(うち7月以降の今期分493,800円)
- ・12月～3月：冬募金「もっともっと使える学校図書室に！」 募金額合計530,800円

「書き損じはがき・未使用切手回収キャンペーン」を11月～2月に実施し、新聞記事として計3回取り上げられたこともあり、目標を大きく上回る成果を得ることができた。(詳細はV-4参照)

2月17日～3月30日には、クラウドファンディングで【「もっと本を読みたい！」ラオスの子どもたちに、やべみつのりさんの絵本と紙芝居を】を100万円の目標額で実施し、415,000円のご支援をいただくことができた。

恒例のオリジナルカレンダーは、『子どもたちのアート』を1,500部制作した。目標の1200部を販売し、これまで最高の990,665円の売上となった。

ラオス語絵本プロジェクトへの参加者や書き損じ葉書回収キャンペーンへの協力者が増えたことから、今年度の新規名簿登録者は360件を超えた。

VII-4 人材育成

- <計画> 専門家とアドバイザーの指導と協力を受けつつ、募金、広報、事業評価、図書館運営、出版の領域でスタッフの実務研修を重ねる。

<実施>

事業進行にあたり専門家の現場派遣が困難であったことから、ラオスでのセミナー開催や事業アドバイスはオンラインによった。このことから、東京スタッフも進行をモニターするこ

とで、専門家による事業アドバイスを共有することが可能となり、専門性の向上につながった。現地派遣に加え、少しハードルが低いオンラインによる専門家のアドバイスの可能性を感じることができた。

「書き損じキャンペーン」において、アドバイザーの主導のもと、広報戦略の立て方から展開まで、指導を受けることで成果を上げることができた。事業評価においても、アドバイザーから多くのアドバイスを受け、現場に生かすことができた。

組織活動の安定のためには、さらにファンドレイジングや広報に関わる人材、プロジェクト運営のためには、読書推進活動にかかわる人材の育成が必要とされる。

VII-5 活動ミーティング・勉強会

<計画> 今年度は定期的な開催を休止する。代わりに目的を明確にしたイベントを開催を検討する。

<実施>

定期的なミーティングの開催は休止したが、3月5日に「書き損じ葉書、未使用切手整理イベント」を開催し、10名が参加した。

VII-6 ネットワーク

<計画> ・国際協力NGOセンター（JANIC）、教育協力NGOネットワーク（JNNE）のネットワークを維持する

<実施>

国際協力NGOセンター（JANIC）正会員、教育協力NGOネットワーク（JNNE）会員を今年度も継続し、森透理事がJNNE代表を務めた。

学習院女子大学ボランティア授業の組み立てに参加し、ラオス事務所とオンラインで結んだり、講師として参加するなどにより、若い世代に国際協力の現場を伝えることができた。

VII-7 インターン・ボランティア

<計画> ・開発教育の一環として日本人のインターン・ボランティアを受け入れる

・会計など専門ボランティアの募集をおこなう

<実施>

インターンは、ドットジェイピーを通じて夏と春に短期計3名を受入れ、継続で1名、新規1名の合計5名が事務所業務をサポートした。例年通り、会計の専門ボランティアにより、会計業務を担っていただいた。

<成果と課題>

コロナの影響により、事務所にての作業がしにくいなど、難しさがあったものの、書き損じハガキキャンペーンでは、インターンが積極的に業務を担ってくれた。複数のメディアにおいて取り上げられ、大きな成果を残すことができた。インターン業務の組み立てを明確にすることで、参加者にとっても、よい経験となるように工夫が必要となる。

VII-8 イベント

<実施>

この1年、以下のようなイベントを実施・参加した。

7/17-8/31	沖電気工業(株)ラオス語絵本作り（社員が在宅にて実施）
9/22	シトリックス・システムズ・ジャパン第2回絵本イベント(11名参加)
9/23	(株)ニコン 第13回絵本作りイベント(16名参加)(年度内に3回開催:12/4、3/12)
10/1-11/30	カフェ&ダイニング素々 委託販売(2月、4月～6月にも実施)
10/5-11/5	カフェ土瑠茶 紙芝居展示会
10/9-10	グローバルフェスタ2021 オンライン参加
10/23-31	パルシステム神奈川ハートカフェ2021(オンライン)
10/24	パルシステム神奈川ハートカフェ2021(会場)
11/4-8	カレンダー制作記念イベント「時空をこえて」開催協力
12/21-1/9	the ETHNORTH GALLERY ラオスの手仕事vol.8 ～森の民、暮らしと刺繍～
3/31	Sunflower kids 絵本イベント 開催協力
4/24	ピーマイパーティ2022開催
4/28-5/8	京都織物展 開催

VIII ラオス事務所 組織運営

この1年間の体制は以下の通りであった。

スラピー	ラオス事務所所長	2006年1月入職	2011年7月から事務所所長
チャンシー	事務所図書室・図書在庫管理		1998年8月入職
バンロップ	図書館事業、セミナー講師補助		2013年7月入職
スパポーン	事務・会計補助		2014年12月入職
渡邊淳子	日本人駐在員		2019年4月入職 駐在・2022年7月帰国
ダラー	顧問	2005年4月入職	(2011年7月現地代表から顧問へ)

VIII-1 事業管理

<計画> ・「読書推進」「出版」の事業を着実に実施する

- ・事業実施の前提となるラオス政府との覚書MoU、MoAに必要な要件（定期的な報告書の提出、評価会議の開催、所轄庁への報告）を着実に実行する

<実施>

I-1. 中等学校の図書館整備を通じた読書推進事業、I-2. 学校図書室（ハックアーン）の整備は、コロナ禍でスケジュールの変更・延期があったものの、なんとかスケジュールをやりくりして概ね完了することが出来た。「出版事業」は遅れがあったものの、ほぼ予定通り進められた。MoUの報告、評価会議開催などは遅れがちだが進めることができています。

<成果と課題>

年度末におこなわれた事業評価会議においても、ラオス側から高い評価を受けることができ、次の事業に成果を引き継ぐ体制を構築することができた。

これまで研修を受けてきた各校の担当教員達が、事業に積極的ににかかわる姿勢を持ち、さらに行政機関、村人（VEDC）の関心が高まってきたことは、成果と言える。

VIII-2 組織運営

<計画> ・優先順位を意識した事業実施スケジュールが組み立てられ、実施される。

- ・事業の実施状況の振り返りがおこなわれ、事業計画案と予算案の策定に反映される。
- ・スタッフ会議が定期的に行われ、月例報告が、所長より東京事務所へ提出される。
- ・月次会計報告が、定期的に行われ、ラオス事務所所長より東京事務所へ提出される。

<実施>

スタッフ会議の定期的な開催や事業活動後の振り返りや年度末の事業・組織評価などにより、スタッフが徐々に、NGOとしての活動全体を見通すことができるようになってきている。

<成果と課題>

年を追うごとに、事業の進捗状況やスケジュール管理、活動の振り返りなどをラオススタッフにより行えるようになり、年度末の事業・組織評価でも、状況を見据えた建設的な意見ができるようになってきている、一方で総合的には、駐在のファシリテーターやフォローがないと難しい状況である。特に主体的に問題を想定し、対処を準備してゆくことは十分でない。これらの課題は、所長の主導が大切であり、所長の運営管理能力強化がなお必要とされる。

VIII-3 資金調達

<計画> 【図書の販売】・活動資金の調達手段として位置づけ、図書販売に積極的に取り組む。

- ・販売はこれまでのルート以外、国際機関、国際協力NGO、私立学校などに広げる。

【受託事業】・国際機関、国際協力NGOからの図書セット制作、読書推進研修などの事業受託を行う。

【新規事業】・自己資金拡充のため、ラオス国内の企業や団体へむけた募金パッケージを企画し売り込む。

<実施>

【図書の販売】

- ・月ごとに販売実績を入力するフォーマットを作成し、個人顧客、委託販売店、私立学校、国際NGOのグループ毎に売上を把握できるようにしている。販売委託先は昨年度の31か

所から33か所に増加した。

- ・ラオスでの図書販売売り上げは、目標値5,300冊、120万円のところ、4635冊、約100万円となった。販売は好調だったものの為替レートの変動により、金額的には達成となっていない。国際NGOからの大口の発注があったことが売り上げを伸ばした一方で、販路開拓を目指す私立学校の未だ充分でない。

【受託事業】

ラオスで活動する国際機関2団体（Child Fund, World Vision）から、図書購入や研修提供を受託した。

【新規事業】

- ・ラオス国内の企業や団体へむけた募金パッケージは、検討する時間的余裕がなかった。

VIII-4 人材育成

<計画> ・図書館や出版に関し、専門家のアドバイスを受けながら実務研修をおこなう

- ・所長のマネジメント能力を高めるため、スタッフ会議の定期開催と月例報告の作成を駐在員がサポート

<実施>

- ・タイでの学校図書館の活動事例視察は、コロナの影響もあり、まだ実施には至っていない。
- ・スタッフ会議の定期開催を駐在員がサポートした。スタッフ会議は、週1回のペースで開催しており、事業スケジュールのマネジメントが出来るようになった。月例報告については、実施出来ていない。

VIII-5 広報

<計画> ・フェイスブック、ブログなどを用い、活動やラオスの教育事情に関する情報発信を強化し、日本社会及びラオス社会での団体認知度を上げる

<実施>

- ・ラオス国内での団体認知度を高めるため、2020年7月にラオス事務所のフェイスブックページで、活動紹介や出版本の宣伝をした。また、スタッフブログ、ニュースレターなどで、ラオス事務所の活動やイベントなどの情報発信をおこなった。
- ・子ども達に向けた読み聞かせの動画配信（YouTubeチャンネル）は、2021年カレンダーに掲載した紙芝居の動画を月ごとに配信した。

VIII-6 ネットワーク

<計画> 国際協力NGO（INGO）、日系NGO（JANM）との連携を維持するとともに、ラオスのNGOの中で当会の認知を広げる。

<実施>

INGO内ではWhatsAppグループでコロナ情報も含めた日々の情報交換を行っている。日系NGOとの連携は、コロナ禍以降、日本人駐在員どうしの情報交換をより密にし、情報交換の機会を設けた。

VIII-7 インターン・ボランティア

<計画> 社会開発やNGOへの理解を深めるため、ラオス人学生インターンやボランティアを受け入れる。

<実施>

今年度はコロナ禍により、併設図書館の一時閉鎖やテレワークが推奨されたこともあり、ラオス事務所で、インターンやボランティアの受入れは実施しなかった。

VIII-8 訪問受入れ

<計画> コロナ禍が収まるまで原則休止する。

<実施>

この1年、以下のようにオンライン授業やイベント実施をおこなった。

3/10	ブックフェスティバル 出展(国立ドンドーク大学)
6/7、14	学習院女子大学 オンライン授業

この1年間私たちの活動を支援してくださったみなさま

順不同 敬称を略させていただきます 会員はこの1年間にご入金いただいた方です

□活動会員(48件) 2021年度 2022年度会員

板倉雅美 伊丹千絵 伊藤由紀子 伊藤珠希 伊藤るみ子 猿田由貴江 小沼千秋 風間美苗 窪田千春 鳴海加奈 小菅郁江 後藤知明 塩谷光 清水宏子 下田尊久 新藤雅章 塚田小百合 頭頭幹雄 茅根靖典 チャンタソン インタヴォン 東矢高明 中野利弘 野口朝夫 濱田果歩 平石未奈 福島孝好 福島延好 古谷理恵 森透 森倉次郎 矢崎芽生 やべみつのり 横川宣行 横山真紀子 脇田康司 秋元波 安藤克洋 小川直美 笠原岳夫 勝占紀子 近藤知子 佐藤由理 西村恵子 葉山智美 増田順子 若林邦子 赤井朱子 匿名1名

□賛助(サポーター)会員(93件) 2021年度ご入金の方(会員期間は1年間有効です)

神田紀代子 重田康博 高橋文恵 田中淑子 奥平康照 浜尚未 上野勉 秋元秀俊・尚子 増原久子 月川憲次 伊藤和幸・八重子 西村憲治 鈴木玲子 伊東淑子 田所房子 池谷光江 山本晴代 田所房子 飯島京子 越村佳代子 真田みぎわ 堀田譲 片山純子 新田直人 泉谷五十鈴 政岡有紀 手塚千鶴子 今村好章 寺田美紀 井上とみ子 深谷じゅん・さや 海老原ひと美 徳江弘子 大沢清 井上英夫 早川要清 林和美 松岡由利子 菅野典雄 山本明子 佐野吉男 梅澤敦子 高木義人・みはる 萩原佐知子 笠原岳夫 佐々木多美枝 坪井哲夫 キット綾乃 後藤英彦 馬場淳 増塩弘隆 黒古次男・雪 鈴木弘之 小野崇・絵理 月館幹夫・ゆかり 高瀬稔彦 鶴岡包 土屋真理恵 政岡史織 原明子 乗松和代 高林篤治 伊藤啓 井井道夫 川口雄嗣 苗村信行 菊地良一 広江尚司 福田美知子 関美枝子 中牟田とも子 水野功 中原道子 野間成之 塩見正樹 谷川俊太郎 国久清司・晃子 神田紀代子 山本真佐美 高橋久夫 萩原佐知子 越村佳代子 鈴木弘之 新井逸子 田所房子 泊寛二 高橋明子 宮嶋利明 東和代 佐々木多美枝 鈴木美登里 後藤英彦 伊東尚美 匿名1件

□マンスリーサポーター

高橋千怜 沼尾早希子 城間光江 小石シリワン 福島延好 株式会社叶設計 青戸美代子 松田壽代(有)空デザイン角範昭 山田和代 菊地びよ 武田英希 鈴木芳明 匿名2件

□一般寄付(203件)

重田康博 小林十 伊藤佳祐 高澤朋子 中村里織 大貫和則 めこん 河岸裕美子 小林明子 小嶋喜久代 盛田純子 東和代・智美 中山美津子 自治労町田市職員労働組合 伊藤徳子 鳴海加奈 中島源吾 山本晴代 沖電気工業(株)OKI愛の募金 原隆司 内田恵子 塩見正樹 久野綾子 東矢高明 小林猛・千賀子 田代洋子 片山純子 加藤晴子 小川直美 平田保・喜代枝 渡邊邦子 穎明館中学高等学校 青野靖之 小林千香子 武田英希 遠藤泰子 齋藤のり子 武安ますみ 長塚淑江 スーザンももこ 野間成之 真喜志康人 今村好章 三田景子 佐々木賢子 新井せい子 公文国際学園・図書委員会 近藤昌江 田中照美 長谷川洋一・香代子 岡村義雄 関家ひろみ 渡辺美美子 島川富雄 中村真文 横内智子 鈴木萌花 民話と紙芝居の家事務局・宮崎りえ子 伊藤るみ子 久禮和彦 西牧美穂 福島延好 中平順子 山本恭子 山本宏 齋藤節子 伊藤昌子 田中俊子 加藤花世 関口尚子 馬場健太 岩本ルツ 内富未央 国本加代子 西村恵子 亀高住枝 林和美 高澤朋子 浅山哲 東元浩一 矢野順子 近藤明代 大松佳子 佐々木モト子 筒井健二 藤本裕江 岡田忠士 山脇麻未 梅澤敦子 山岸律子 鹿島傑 高木義人・みはる 金成有祐 伊藤博子 山本邦子 上田節子 高山訓江 金野喜久子 松井久仁子 二木憲一 渡辺美美子 服部芳夫 矢崎芽生 山田芳郎 大野弘 中村里織 栗田有美 伊藤徳子 清水永一・すいび 窪田千春 中野修吾 権京鎬 高世仁 入江麻湖 藤井友紀 須賀勇 関和枝 長倉雪江 高瀬稔彦 佐藤明恵 沼田宏一 竹増理紗子 加藤萌音 中島麻美 山本功子 長谷川洋一 石川久子 原道子 奥山裕美 西村恵子 宗方忍 高林篤治 奥田雪子 木原はるひ 上野まゆ 池内誠 福田郁代 戸倉裕子 野口朝夫 高橋悦子 自治労町田市職員労働組合 安元博美 ササオハルコ 今村弘道 成田慈子 齋藤節子 松尾初美 HIR OSHI TEMMEIYA 足利結佳 穂積光男 福田美知子 勝康雄 梅田嗟峨 石川久子 原早苗 加藤花世 国久清司・晃子 千家尊祐 金井崇浩・佳子 渡辺美美子 増田美子 青山亨・カンピュー 井上とみ子 田代洋子 小林喜美男 森倉次郎 池田純子 太田陽子 戸谷幸一 福島悟 亀高住枝 遠藤進 ソロプチミスト出雲 鈴木理紗 齋藤のり子 林郁子 長谷川洋一 関家ひろみ 塩田正彦 竹下重子 藤本裕江 野崎真弘 野崎悦子 増原久子 後藤知明 東和代 福島孝好 茅邦子 若林邦子 坂本佳美 小林克彦 大貫和則 匿名14件

□特別募金・夏募金2021(34件)

神田紀代子 佐々木賢子 福島悟 秋元尚子 佐藤初美 近藤知子 小林克彦 手島勝 沼尾早希子 中原和夫 平野盟子 石居尚子 神山生子 坂詰貴司 梅澤敦子 奥平康照 上野勉 伊藤正子 高瀬稔彦 五島昌子 東和代・智美 月川憲次 飯川桃子 伊藤和幸・八重子 増田順子 後藤知明 吉村遼馬 亀高住枝 塩谷光 尾花祥恵 池谷光江 匿名3件

□冬募金2020(49件)

小林國幹 齋藤武 福田美知子 佐藤千朗 梅田嗟峨 本澤千代 若林邦子 笠原岳夫 渡邊三千子 広江尚司 國重裕 菅野博子 手島勝 山口良子 小松由美 野間成之 内田恵子 坂詰貴司 山田芳郎 長嶺亨子 福島悟 塩田正彦 伊藤徳子 塩見正樹 小林毅 関家ひろみ 伊藤和幸・八重子 新田直人 森倉次郎 浅野千津子 高瀬稔彦 宗像良保・由美子 吉田泰彦 神山生子 小嶋喜久代 山本とし子 高澤朋子 伊藤悦子 西村恵子 松井紀美子 下田尊久 福島延好 小川直美 長島義宜 風間美苗 長島義宜 高瀬稔彦 匿名2件

□指定募金

絵本出版募金(19件): 田島敏子 河端洋子 佐々木多美枝 藤江孝美 大木聡 倉田健一 佐々木多美枝 江川静英

図書セット: 江川静英

スタッフサポート: 高瀬稔彦

学校図書室募金:福岡那の香ライオンズクラブ 江川静英

子どもセンター募金:鶴見和雄

□クラウドファンディング「もっと本を読みたい！」ラオスの子どもたちに、やべみつのりさんの絵本と紙芝居を(49件)

tk3, yutaka_jotta, hiro1896, bwpanzan, user_7c231580c7d4, kamitudohiroimi, poronplum, ATSUKO NISHIYAMA, trollren1, guestab7a888c7ce4, guest8db63de071, punya_sawa, guest17101eed1, miina23, socio1977, hanataka, a_yaa, norimaki2002, rottymama, Yasue 0812, songryol, pajnhub, otomesan, fuefukiojisan, atsushi_b, noribachan, Tulusi, cozyforest, sylaolao, stmhgs, Sakae Motohashi, t_shimoda, higabun2020 掛川あすか 山本宏 森内直美 龍沢友子 佐藤義顕 高山訓江 遠藤広子 西林久美子 日本児童教育専門学校 山本宏 矢部和博 佐藤まもる 長野ヒデ子

□プロジェクト指定寄付・助成金・受託金(現地入金を含む)

学習院女子大学 外務省日本NGO連携無償資金協力 沖電気工業(株)OKI愛の募金事務局 公益財団法人ベルマーク教育助成財団(公財)かめのり財団 (株)すかいらーくホールディングス 石光商事(株) キヤン社会貢献/キヤン(株) Child Fund

□カレンダー購入

諏訪洋子 多々良恵子 久野綾子 小林毅 東矢高明 岡田尚也 山本真左美 片山純子 茅根靖典 岩崎良子 加藤晴子 小川直美 河端洋子 野田明音 菌頭幹雄 平田保・喜代枝 黒木典子 松田壽代 村上むつ子 武安ますみ 増原久子 スーザンももこ 山田和代 長本幹 金井崇浩・佳子 新田直人 古谷理恵 杉本ステイボン 中牟田とも子 穂積光男 佐藤義顕 塩川希代子 佐々木賢子 武田英希 秋元波 飯島京子 磯谷理恵子 田中照美 岡村義雄 工藤いづみ 渡邊邦子 國貞直子 平田晶子 中村則子 鈴木萌花 民話と紙芝居の家事務局・宮崎りえ子 長澤典子 伊藤るみ子 高山リリ子 立川佐和子 葉山智美 やべみつのり 渡邊三千子 廣島輝夫 西牧美穂 福島延好 尾崎織女 小村亜希子 中平順子 山本恭子 山本宏 齋藤節子 伊藤昌子 猿田由貴江 加藤花世 立尾論世 関口尚子(有)空デザイン・角範昭 井出聖子 山根純子 千代田運輸(株) 馬場健太 江波戸玲子 岩本ルツ 内富未央 高橋文恵 西村恵子 青田沙里 塩谷光 中川純子 戸田恵美子 多々良恵子 野村壘 小川幸宣 谷村通子 西田至子 福島孝好 宮城典子 井原眞子 佐伯かよ子 東元浩一 矢野順子 中川眞規子 森透 立尾論世 橋本彩 荒井好子 吉田由紀子 玉野恵子 下田尊久 常加奈子(株)めこん AIMA 風間美苗 鹿島傑 柿沼由美子 常盤美恵子 後藤英彦 山本邦子 久禮和彦 やべみつのり 松井久仁子 宮城典子 福島美佳代 江頭紀子 新藤雅章 大野弘 富永誠治 後藤知明 脇田康司 東久留米市立東部図書館 塚田小百合 吉田敏男 窪田千春 入江麻湖 藤井友紀 押原譲 佐藤佳久子 キット彩乃 沼田宏一 高世仁 加藤萌音 山本功子 山岡靖子 亀田知佳 今井彩圭 藤澤冬詩 森美由紀 上原卓真 前島愛理咲 相馬淳子 浜田市世界こども美術館 永田彰 タンワー スイ Kafepa ケオ Café angó プンタノム Yusuke Kinoshita 黒田智子 スーサダ 上山佳彦 日高志満雄 山本剛 インターウォン 泉田隆史 戸倉裕子 村井龍三 パープアン Lars-Gunnar Lindgren 安井清子 金城千秋 久保奈都紀 蓮池由佳 山本朋子 小島正行 浅山哲 峯田真由美 渡邊淳子 渡邊紀子 西山奈穂子 伊藤紗彩 板倉雅美 NPO法人地球の木 匿名15件

□書き損じハガキによるご寄付 ※書き損じハガキキャンペーンへの寄付は含んでいません

手塚まりこ 戸田恵美子(株)アイエンター・小泉・木内 大原彪雄 大沢清 坂田郁子 渡辺光子 青木美弥子 中牟田とも子 島中太 山本晴代 Coffee Roaster SUIREN+安藤克洋 横井道子 大貫和則 鳴海加奈 ”いらない!原子力空母”よこすか 生田明美 小池哲也 田中照美 小林十 那覇市立古蔵小学校 橋本進 小谷清 中村尚子 伊東尚子 島中太 岡本安子 岡村宮子 小阪聖子 堀田譲 黒川仁紀 福島延好 渡邊富美江 小林十 野口朝夫 山本宏 越谷邦雄 井谷由紀 太田陽子 武安ますみ 保木井美和子 晴山ゆりあ 秋元澄子 小川勝久 匿名10件

□ラオス語絵本プロジェクト

池田市立緑丘小学校 池田市立呉服小学校 池田市社会福祉協議会つむぎ 虹のぼけっと 河岸裕美子 明和町役場健康あゆみ課健康づくり係・竹内泰代 伊藤佳祐 法元順 井上夏生 福田真紀 前田千恵子 中山洋子 東京海上日動火災保険(株)経理部財務業務グループ・杉元瑛里子 愛知県立常滑高等学校・榊原 中山美津子 梅木亨 国際ソロプチミスト出雲・井上知子 松本幸子 東京海上日動火災保険(株)IT企画部基盤G・杉本奈津子 千葉港ロータリークラブ 野田明音 郷津真理子 沖電気工業(株) シトリックス・システムズ・ジャパン(株) (株)ニコソ 三井住友海上火災保険(株)東京企業第二本部 東京海上日動火災保険(株)人事企画部ウェルネス推進室 岡田忠士 島根県立江津高等学校 国本加代子 佐々木モト子 公文国際学園中高等部図書委員会 熊野市社会福祉協議会 竹増理紗子 手塚まりこ 木原はるひ 宗方忍 中島琴音 岩崎洋子(株)ジェーシービー広報部CSR室(公財)日本フィランソロピー協会 生活協同組合パルシステム神奈川 岩崎洋子 滝沢真紀子 関屋みずき 東京海上日動あんしん生命保険(株) 大谷章子 フクダタクロー 渡邊真砂 深澤謙一 清水友和 横井曜子 ラオスの子どもとつながる会 工藤美紀 坂本佳美 馬場俊郎 山田敏晴 益田幸代 柴田真歩 橋本千穂子 田中照美 小島倫太郎 自治労名古屋教育支部 匿名4件

□講師派遣・現地訪問受入

学習院女子大学 町田市立真光寺中学校 女子美術大学附属中学校 愛知県立大学

□物品販売・委託販売協力・その他協力

ザ・エスノースギャラー 英国風ティーサロンメイフィールド(財)千里文化財団国立民族学博物館ミュージアムショップ 特定非営利活動法人ワールド・サポート・プロジェクト 相馬淳子 フラド Support for Woman's Happiness 中平順子(カフェ土留茶) カフェ&ダイニング素々 特定非営利活動法人地球の木 日本マイクロソフト(株) 特定非営利活動法人日本NPOセンター・TechSoup

□東京事務所ボランティア協力

東京事務所サポート 風間美苗 福島孝好 宮城典子 岡田龍之介 高山葵 町田佳穂 工藤朝妃 堪山泰瞬 西村恵子 宮城典子 小出菜々美 矢野みなみ

通信編集協力サポート 株式会社デザコロ・大石雄一郎 森透